

とらや 東京ミッドタウン店ギャラリー

第 39 回企画展「磁器 - ひとつだけのかお - 」

とらや 東京ミッドタウン店ギャラリーでは、2017 年 11 月 1 日（水）より磁器に焦点を当てた企画展を開催いたします。製造工程で偶然あらわれる、意図しない模様やゆがみ。本展では、手づくりならではの、器一枚一枚がもつ味わいに注目します。



<概要>

日本初の磁器である有田焼が誕生したのは 1616 年。朝鮮人陶工 李参平(りさんぺい)が佐賀県有田町にある泉山で、原料となる陶石を発見したことによりはじまったとされます。以来、有田町を中心にその技法やものづくりの精神は受け継がれ、2017 年に 401 年目を迎えた今も、国内外を問わず多くの人々に愛されています。本展では「磁器 - ひとつだけのかお - 」と題し、窯で焼いた際に鉄分が変化し色づく黒点など、同じように作っても自然の効果で偶然生まれる、一枚一枚わずかに異なった表情や形、いわば「ひとつだけのかお」に注目しました。また、磁器の原初的な技法「型打ち」を継承する文祥窯が、本展にあわせ、とらやの羊羹『夜の梅』を題材にした新作を制作。工程とともにご紹介いたします。

“ひとつだけのかお”をお楽しみいただきながら、お気に入りの一点と出会える機会となりましたら幸いです。

<基本情報>

名 称 : 第 39 回企画展「磁器 - ひとつだけのかお - 」
場 所 : とらや 東京ミッドタウン店内 ギャラリー
(東京都港区赤坂 9-7-4 D-B117 東京ミッドタウン ガレリア地下 1 階)
電話番号 : 03-5413-3541
会 期 : 2017 年 11 月 1 日（水）－2018 年 2 月 26 日（月）
時 間 : 11:00～21:00 ※年末年始は営業時間に変更がございます。元日休。
企画協力/デザイン: 丸若屋
協 力 : 文祥窯
年表監修: 佐賀県立九州陶磁文化館 (すべて敬称略)

<展示内容>

◆ 磁器のつくり方、その変遷

1616年に誕生した磁器。そのつくり方と特徴を、代表的な3つの時代に絞ってご紹介します。

◆ 器とお茶と菓子

展示期間である11月～2月それぞれの季節にあった文祥窯の器と、お茶ととらやの菓子との組合せをパネルでご提案。期間中、季節にあわせ、一ヶ月毎に替わります。

◆ 製作工程(型打ち)

本展にあわせてつくられた文祥窯の新作を例に、型打ち技法による磁器の製造工程をご紹介します。

◆ なりたいようになった器

手づくりだからこそ生まれる器の個性をご紹介します。

※展示品は一部を除いてご購入いただけます。

文祥窯が本展にあわせ、とらやの羊羹『夜の梅』を題材に制作した新作や、セレクト商品の販売については、次号のニュースレターにてご紹介いたします。

<協力>

○丸若屋(まるわかや)

「過去と現在を結び付け、未来を想像し具現化する」をテーマに、2010年に設立。何よりもリアリティを求め、その活動は海外も含めて多岐にわたる。磁器や曲げわっぱ、染色、漆、金属加工などに携わる全国の職人たちと企業やアーティストによるプロジェクトの支え役として従事。2013年～2016年、佐賀県有田焼創業400年事業にプロデューサーとして参加し、ギメ美術館での展示企画など、フランスの人々と有田の八つの窯元をつなぐ様々な取り組みを行なった。



○文祥窯(ぶんしょうがま) (佐賀県伊万里市)

3代目当主 馬場光二郎が博物館で見た400年前の型打ちの磁器に心を奪われ、その魅力を現代に継承すべく、昔ながらの型打ち技法で磁器をつくる窯元。ほとんどの工程を手作業で行なっているため、同じ型でも1点ずつ表情が異なり、それぞれに生き生きとした個性が感じられる。



10周年!【とらや 東京ミッドタウン店】(2007年オープン)

和菓子だけではなく、和の様々な魅力や価値も広くお伝えしたいという想いから、ギャラリーを併設し企画展を開催しています。想いを同じにする方とパートナーを組み、ふろしきや漆、こけしなどをテーマに、これまで企画展を実施してきました。これからも、日本文化を今の時代にあった新しいかたちで発信していきます。



取材に関する問い合わせ先

株式会社 虎屋 経営企画室 広報課 担当：奥野容子
[Tel:03-3408-4128](tel:03-3408-4128) E-mail: okuno@toraya-group.co.jp